

第48回 口腔機能って何だろう？

＝「認知症の方」の食事「困りごと」と対処法について＝

(その23)

北九州在宅医療・介護塾

塾長 久保 哲郎

今回も引き続いて、「嚥下が悪くなり、むせることが多くなったので防ぐにはどうしたら良いか？」という質問に対して、その対応策についてご紹介します。

●先月に引き続いて今月も、「むせのタイプと原因」、そして「対応策」についてご紹介します。

②飲み込んでいる最中にむせる場合

- ・喉頭閉鎖が不十分：喉頭挙上が弱い場合や食形態が喉頭閉鎖の速度に対応していない時に起こります。⇒食塊が咽頭通過の際に緩くなるようトロミを付加する。
- ・呼吸と嚥下のリズムが合っていない。⇒呼吸のリズムを整えたり、食事摂取時に嚥下に対して意識化を図る。

③飲み込んだ後にむせる場合

- ・飲み込んだ後、飲食物が口腔内や咽頭に残留（咽頭残留）していたり、一口量が多い、或いは口唇閉鎖が不十分な時に起こります。⇒一口量の調整（3～5割）や、捕食時に五感を活用し食物認知を高めたり、口唇閉鎖を介助する。
- ・介助ペースが嚥下のリズムに合っていない。⇒嚥下のリズムに合わせて適切な介助ペースを図る。
- ・付着性の高い食形態である時。⇒付着性の低い食品（お茶ゼリーなど）と、交互嚥下を行い残留量の低減を図る。

次回に続きます・・・。

飲み込んだ後にむせる場合 (嚥下後誤嚥)

咽頭に残留した飲食物
が咽頭や気管に浸入

